

再婚で出会った義姉と、ぎこちない初めての夜 一親の再婚で“姉弟”になった、血のつながらない彼女とー

初対面からひとつ屋根の下。義姉という建前と、一人の男女としての本心のあいだで揺れる年上同居純愛
夜更け文庫／夜野しずく

本作品はフィクションです。登場人物はすべて18歳以上の成人であり、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

プロローグ

ほんの半年前まで、この人は他人だった。

ふじみや はるか

藤宮 遥。親同士の再婚で、ある日とつぜん「姉」になった人。血は一滴もつながっていない、まったくの他人。それなのに今、直の腕の中で、その人が息を乱している。

夜の寝室は、ベッド脇の小さな灯りだけが点っていた。カーテンの隙間から、遠くの街灯が一筋だけ差し込んで、白い肩のうえで揺れている。家のなかはしんと静まりかえって、この時間にこの部屋で何が起きているか、知る者は誰もいない。

昼間の遥を思い浮かべる。図書館のカウンターで、利用者に静かに本をすすめ、誰に対しても穏やかで、丁寧で、隙のない大人の女性。「お義姉さん」と呼べば、いつも少しだけ困ったように微笑む、あの落ち着いた横顔。よこがお

その同じ唇が、今は直の名前だけを、たどたどしく、けれど確かに呼んでいる。

「……直、くん」

慣れない手つきで、二人はまだ互いの輪郭をたしかめている最中だった。長い黒髪はほどけ、白い首筋に幾筋も乱

れて貼りついている。切れ長の目もとは潤み、昼の涼やかさはどこにもない。

血はつながっていない。けれど戸籍のうえでは姉と弟で、この半年、同じ屋根の下でぎこちなく暮らしてきた。だからこそ、こうして触れ合うことのひとつひとつが、まだどこか不器用で、初々しい。



——ここから先は製品版でお楽しみください——